

資料（１）

過去の五輪でのボート・カヌー会場の状況

日本共産党都議団調査

開催都市	会場名	状況
リオデジャネイロ	ラゴアスタジアム	海岸から内陸に入った湖 (ロドリゴ・デ・フレイタス湖)
ロンドン	イートン・ドーナ	自然の中の人工コース (イートン校所有)
北京	北京オリンピック水上公園	公園内の人工コース (地下に水循環・浄化施設)
アテネ	スキニアス・オリンピックボートカヌーセンター	海岸から内陸に入った人工コース
シドニー	シドニー国際レガッタセンター	自然のなかの湖 (プリンスレイク)

軟弱地盤の状況に関する都の答弁

■オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員会(2014・12・22)

○畔上委員 費用は示せない。私が聞いたのは、地質調査で見直すことになったんだとさっき説明されたけれども、なぜ必要なのかということなんですよ。

つまり、地盤が弱くて改良工事が必要なのか、土壌汚染があって改良工事が必要なのか、その根拠ですね、改良工事を行わなければいけない根拠を示してください。

○荒井オリンピック・パラリンピック準備局輸送担当部長 海の森水上競技場につきましては、地質調査の結果、付近が非常に軟弱な地盤であるということが改めて判明いたしましたので、その軟弱な地盤に対応するために地盤改良工事を実施するものでございます。

■オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員会(2015・11・9)

○吉田委員 お伺いしますけれども、これは具体的にどのような地盤状況だったのでしょうか。ご答弁ください。

○花井オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長 海の森水上競技場の予定地周辺の地盤は、主として細かい粒子を多く含んだやわらかい土で構成されておりまして、地盤のかたさを示すN値が、深さ数十メートルにわたりましてゼロから三程度の極めて小さい値となっております状況から軟弱地盤と判断いたしました。

議事録(要旨)

日時： 2014. 3. 27(木) 18:30～20:00

場所： 日本ボート協会

出席者：【日本ボート協会】■■■■■■■■■■、■■■■■■■■■■、■■■■ 氏

【東京都】水飼課長、西沢課長、藤崎係長、宗形

議題： 競技会場について

提示資料：

(都) ボート会場については、関係する部署が非常に多く、スケジュール、お金の面でも非常に厳しい状況にある。立候補ファイルの予算額ではとても実現できない。必要があればコース計画の変更もあり得る。競技に必要なものを確保しつつ、現実的に考えながら、IFを含め課題を共有したい。そのためにも、ボート協会と都で意見のすり合わせを行い、早いうちにIFに話を持っていきたい。まず、現状を説明する。

<ボート会場周辺の状況>

(都) まず、ボート会場の周辺施設についてだが、中潮橋を挟んで右半分がゴミ、左半分は建設発生土。不燃ゴミ処理施設、破碎ゴミセンター等の施設がある。

ボートコース上にある海上輸送ごみの揚陸施設では、特別区の不燃ゴミが船で運ばれてくる。

また、中潮橋は、今後外側処分場に大きなコンテナ埠頭が3つできる予定もある。

オリンピックに向け、中潮橋を架けかえるが、■■■■■■■■■■

■■■■■■■■■■という条件で建てる。また、コース内の揚陸施設を撤去する必要がある。

このように、ボートコースの工事であっても、周辺の施設の影響等を考えて計画をしなければならぬ。工事期間、難易度、コスト面どれも大変厳しい状況である。

とはいえ、ここでやるしかないので、できるだけ諸問題を軽減できるよう、工夫をしなければならぬ。まずは、課題のレベル感を合わせたい。第一段階としては、大枠から。細かい要望（例えば、波除を付けたい等）については、第二段階と考えている。

(ボ) 難しい事は理解している。協会の方でも要望をまとめてあるので、譲れるところ、譲れないところをすり合わせしたい。例えば、第一段階とはどのようなことか。

<都検討内容>

(都) ①ゴール地点■■■■■■■■■■を防波堤で区切ってしまう。

資料(4)

立候補ファイル時からの整備計画の変更

	立候補ファイル時	現在の計画
整備費	69億円	491億円
波対策	<ul style="list-style-type: none">・矢板で囲む	<ul style="list-style-type: none">・締切堤・水門を設置、海水を入れ替えるためにポンプを東西に2基設置・コース両岸に消波装置
風対策	<ul style="list-style-type: none">・特になし	<ul style="list-style-type: none">・南側護岸上の一定部分に盛土し、その上に防風林を整備
地盤対策	<ul style="list-style-type: none">・地盤調査せず、軟弱地盤対策なし	<ul style="list-style-type: none">・締切堤は上部はコンクリートにし海底約50mまで矢板をうち、背後には垂直の杭と斜めの杭で支える

防風林の効果に関する答弁

■オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員会(2015・11・9)

○吉田委員 …この五百メートル程度の防風林を南側に整備した場合に、コースの風速がどれだけのエリアで低減の効果が一体あるのですか。お答えください。

○花井オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長 防風林の設置によりまして風速の低減を図る場所は、競技水域内の他の場所と比べて風速の大きい区間でございまして、その範囲は、延長二千メートルコース全体の四分の一程度でございまして、

国際カヌー連盟事務局長との国際電話（要旨）について

日本共産党都議団調査

- 日時 2016年9月23日18時頃（スイス時間午前10時頃）
- 電話の相手 国際カヌー連盟 サイモン・トゥルーソン事務局長
- 質問者 吉田信夫都議（通訳を通じて）

Q、風対策について、昨年（注）の電話では、「風の影響についてのデータの提供をリクエストし待っている」「風について実証実験を求めている」と話された。東京都から報告はありましたか。

A、昨年すでにコースにそって木を植えてほしいと要望し、東京都からできないと答えが返ってきた。東京都から、やる必要はないと言われたが、私たちとしては同意できない（disagree）。

Q、都はコースの南側の一部に木を植えると言っているが、それは聞いてないのか。

A、一部だけ植えても意味が無い、効果がない。それについても同意していない。

Q、昨年「波の影響は重要なので、都に対策を求めている」と話された。都から波対策について新たな提案はありましたか。

A、まだ回答を待っている。昨年の都の提案は効果はないと判断し、その後の対策については待っているところである。

Q、昨年の都の提案とは。

A、メッシュの丸い（円筒）装置で、それは壁への波の対策にはならない。

Q、東京都の北にある彩湖についてどのような感想ですか。

A、カヌーは1kmあればよいが、ボートは2km必要なので、長さがネックになっている。競技場を動かすことを検討するためには議論が必要だ。自分たち（カヌー連盟）は、代替地に移動することは良い（happy）と思っている。ボートとの兼ねあいが必要。

以上

注 2015年10月29日に、同氏と国際電話で話した。

海の森水上競技場の入札結果について

○落札者 大成・東洋・水ing・日立造船異種業特定建設共同企業体

○予定価格 248億9863万9680円（税込み価格）

○落札金額 248億9832万0000円（税込み価格）

○落札率 99.9987% 予定価格との差額 31万9680円

○開札結果

・競争入札者 落札者のみ

・価格点 0.0007

・技術点 60点満点 36点（+基礎点100点）

・評価値 136.0007

平成 28 年 1 月 14 日
港 湾 局

**設計・施工一括発注
技術提案型総合評価方式の結果について
「平成 27 年度海の森水上競技場整備工事」**

「平成 27 年度海の森水上競技場整備工事」に係る設計・施工一括発注による技術提案型総合評価方式について、下記の結果となりましたのでお知らせします。

今後、平成 28 年第一回都議会定例会に付議し、議決後、契約を締結する予定です。

記

1 落札者

大成・東洋・水 ing・日立造船異業種特定建設共同企業体

(所在地：東京都新宿区西新宿六丁目 8 番 1 号)

- ・河川工事 (大成建設株式会社、五洋建設株式会社、佐藤工業株式会社、岩田地崎建設株式会社)
- ・建築工事 (東洋建設株式会社、大末建設株式会社)
- ・ポンプ据付け (水 ing 株式会社)
- ・水門門扉 (日立造船株式会社)

2 予定価格

¥ 24, 898, 639, 680 (税込価格)

(うち消費税 ¥ 1, 844, 343, 680)

3 落札金額

¥ 24, 898, 320, 000 (税込価格)

(うち消費税 ¥ 1, 844, 320, 000)

4 契約期間

契約確定の日から平成 31 年 3 月 28 日まで

5 概要

港湾構造物 締切堤約 350m 他

水門施設 2 基

揚水施設 1 か所

排水施設 1 か所

建築施設 2 棟 (S 造、地上 2 階建、延床面積各約 6, 000 m²) ほか

延床面積合計約 13, 000 m²

6 開札結果

NO	競争入札者	入札金額 (税抜)	価格点	技術点		評価値
				基礎点		
1	大成・東洋・水ing・日立造船 異業種特定建設共同企業体	¥23,054,000,000	0.0007	基礎点	100.0000	136.0007
				課題1	8.0000	
				課題2	18.0000	
				課題3	10.0000	
				計	136.0000	

※基礎点は、実施要領 第5章2(1) 総合評価の方法 アに記載する条件を満たしている場合に付与します。

7 落札者の決定方法

東京都技術提案型総合評価方式実施要綱（平成13年6月28日13財経総第477号）に基づき、公共工事の質を高めることを目的として、性能、機能、技術等に関する提案を募集し、技術審査委員会の審査を経て採用された技術提案と共に工事価格を総合的に評価し、「評価値」の最も高い者を学識経験者の意見聴取を経て、落札者として決定しました。

※評価値の算出方法

評価値 = 技術点（160点満点） + 価格点（60点満点）
（技術点には基礎点100点を含む）

8 東京都が求めた技術提案

課題1：異業種JVによる設計・施工体制

課題2：東側締切堤区間の施工時期を確実に達成するための施工方法及び工程管理

課題3：締切堤の既設護岸取付部の遮水性能の検討・検証体制

9 技術審査委員会による評価

落札者の提案は、課題1においては、異業種共同企業体全体での工事の管理・調整及び運営を行うための総合事務所や専門グループを組織するなど、具体的な実施体制が提案されている。課題2においては、輻輳する作業や工程上の順序などを踏まえた施工方法及び工程管理が提案されている。課題3においては、構成会社から選任された技術者による企業体検討委員会を設置するなど、具体的な実施体制が提案されている。

全体的に各課題に対して、実施設計や施工上の検討分析を的確に行った上で、確実な品質管理や工程管理のための対策を講じた取組となっている。特に、課題2における輻輳する作業を極力回避した施工計画は、遅延リスクを軽減させる有用な取組として評価できる内容である。

10 技術提案型総合評価方式の実施経緯・今後の予定

日 程	内 容	備 考
平成 27 年 8 月 27 日	第 1 回 技術審査委員会	(1)実施方針の調査、審議 (2)技術提案審査基準の策定
平成 27 年 10 月 16 日	入札公告	質問回答の実施
平成 27 年 11 月 18 日	第 2 回 技術審査委員会	ヒアリングの進め方等
平成 27 年 11 月 27 日	技術提案書提出締切	
平成 27 年 12 月 9 日	第 3 回 技術審査委員会	提出者とのヒアリング実施
平成 27 年 12 月 15 日	第 4 回 技術審査委員会	技術提案書等の審査
平成 27 年 12 月 17 日	技術提案採否通知	質問回答の実施
平成 28 年 1 月 14 日	開札・落札者の決定	
平成 28 年 3 月	第一回都議会定例会（議決後契約締結）	
平成 31 年 3 月 28 日	契約工期	

11 技術審査委員

	現職名	委員名
委員長	港湾局技監 (兼務) オリンピック・パラリンピック準備局技監	石山 明久
委員	港湾局港湾整備部長	小野 恭一
委員	港湾局開発調整担当部長 (兼務) オリンピック・パラリンピック施設整備担当部長	原 浩
委員	港湾局計画調整担当部長	角 浩美
委員	オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長	花井 徹夫
委員	港湾局東京港建設事務所長	山岡 達也

12 学識経験者

現職名	氏名
早稲田大学 創造理工学部社会環境工学科 教授	清宮 理
東京大学 工学系研究科社会基盤学専攻 教授	小澤 一雅
弁護士	野本 修

学識経験者の意見聴取

・地方自治法により、総合評価の実施に当たっては、あらかじめ二人以上の学識経験を有する者の意見を聴かなければならないとされています。(地方自治法施行令第167条の10の2、地方自治法施行規則第12条の4)

このため、上記の三人に、落札者決定基準を定めようとするとき並びに落札者を決定するときにおいて、意見聴取を行いました。

・技術審査委員会において、実施方針の調査、審議、技術提案審査基準の策定、技術提案書等の審査について学識経験者の意見聴取をしております。

議事録(要旨)

※部外秘

日時： 2014.8. 22 (金) 14:00～16:50

場所： ホテルグランパシフィック LE DAIBA B1階「エトワール」

出席者：

【ICF】 [REDACTED] 氏 ([REDACTED])

【日本カヌー連盟】 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED] 氏、
[REDACTED] 氏

【組織委員会】 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED]

【東京都】 根本部長、小野寺部長、荒井部長、太田課長、三浦課長、水飼課長、柳井補佐、
藤崎係長、宇高、本間、村上

議題： 東京2020カヌー会場について

資料：

②スプリント競技会場資料（施設ライン作成）

しまったのでこれも解決が必要である。4つ目の問題は、仮設であれ恒久であれ、今朝視察した別の場所（彩湖）を検討するという事も考えられるが、それは又別の話である。いずれにしても我々は選手達の練習する場所を確保する必要がある。

(都) ボート側の提案なので、これに決定したということではない。ボートとカヌーの両方に協議した上で最終的に確定して、両方から了承をいただかなければいけないと思っている。引き続きいい解決策が出るように調整していきたい。

() 例えば北の湖の方（彩湖）にカヌーを持っていくというのを検討するとコスト削減に更につながるかもしれない。カヌーとボートが一緒にやろうとすることでポンツーンが必要になったりしているので、分ければ必要なくなるので更にコスト削減となるのではないか。そういったオプションも検討してほしい。

(都) トータルでコストが下がる方向だったら検討に値すると思う。基本はボートとカヌーは一緒ということでIOCからも言われている。

() 了解した。私が申し上げたかったのは、この会場を使って2つの競技が無理だということであれば、我々としては別の場所に行くということは構わないということをお伝えしたかっただけである。私としては一緒に行くことが可能であればそれにこしたことはないが、もし一緒にやることによって色々な細かいことを確認した上で、どうしても無理だということであれば、最終的には最後の手段として別の会場ということもありえる。

(カ) メディア等で問題視され、その矢面に立つのはいつもカヌーである。私達のコストは微々たるものだと思っている。カヌーに対するコストはいくらもかかってこない。公表する時はカヌーにかかる費用とボートのコストを分離していただきたい。それはできないのか。

(都) それは分離できない。

(カ) 今日の提案も、カヌーの練習場所をカットして安くただけである。

(都) それだけではない。

(カ) はみ出した部分をカットしただけだから、ほとんどがそれである。

(都) お分かりいただいているかと思うが、カヌーをやり玉にしているわけでも何でもない。ボートとカヌーの競技場である、海の森水上競技場について、常に平等に話している。両方の会場ということで、費用も切り分けられない。

(カ) 今日彩湖を見ていただいたが、あれがフラットウォーターのカヌースプリントコースである。
あれで試算してもらえば、ものすごくシンプルにできる。一度試算していただくと非常にありがたい。

議事録(要旨)

日 時: 2014. 11. 15(土) 9:00~11:30

場 所: ヒルトン東京 3 階「大和“東”」

出席者:【FISA】

【日本ボート連盟】

【東京都】根本部長、荒井部長、西沢課長、水飼課長、原水係長、柳井係長、宇高主任

【組織委員会】

議 題: ボート競技会場について

提示資料:ボート説明資料

国際ボート連盟=FISA 日本ボート連盟=JARA

(都) 昨日の打合せを踏まえて、氏と氏で検討をいただいていると思う。何か質問や疑問点、結論があれば、それについてこの場で議論していきたい。

(F) あらためて、我々が現在どのような考えでいるか話したい。招致の段階において2008年2012年と日本には来日し、ボート競技場としての可能性はどこにあるかを探ってきた。今でも記憶にあるが、氏、氏、氏から素晴らしいプレゼンをいただき、十分な分析を持って、ボート競技会場の可能性を遍く話されていた。2008年、2012年にも言及しているが、スポーツという側面からとらえた時に、海の森ボート競技場は相応しいものである。これは皆さんからいただいた情報に基づいている。もちろん、自分自身もブエノスアイレスで2020年の会場が東京に決まったときも、その場に居合わせており2020年に向けての責任を皆さまとともに感じた。我々の訪問と皆さんとの議論により、110%の支援を捧げることを約束したい。

ただし、アジェンダ2020で改革が行われる。特にコスト面について、再アセスメントが様々な競技会場で行われたと理解している。ソチや過去の整備費過多の都市のようにならないよう、また周辺住民の負担が少しでも軽くなるよう、なるべく低く押さえるということだと理解している。オリンピックムーブメントを推進する上で、非常に難しい局面を迎えている。10月30日にIOCに依頼をし、日本国内の既存施設を再度訪問することとした。そして、オリンピック競技においては、IFが競技の運営の中心を担っている。世界大会では、輸送、アクレディテーション等の側面についてもIFの所掌範囲となるが、オリンピックにおいて競技会場における運営に限られる。今回の訪問の主な目的は①新たな視点で競技会場、特に既存会場を視察すること②彩湖を見てもらいたいという要望を受けた。③46の候補を

いない。

(都) 彩湖についてはいかがが。

(F) 彩湖も素晴らしいが、我々は十分な情報を持っていない。誰がどの程度の規模で整備をし、その費用をだれが負担をするのか。誰が使用許可を出すのか。また、環境団体が反対をした場合にどのように対処するのか。今の時点で、十分な説明ができない。海の森水上競技場がベストと考えているが、IOCがどのように判断するかはわからない。

(都) 今のご説明だと、基本的には海の森水上競技場だが、■■■■は競技の観点で言えば開催可能、彩湖はもう少し検討が必要ということだった。理解に間違いはないか。

(F) そのとおりだ。

(都) この後、彩湖の詳細の説明と■■■■の補足事項の説明をしたいと思うがいかがが。

(F) ■■■■については、説明に時間を割かなくても良い。競技という側面では良いが、道路の状況、ホテル、レストラン等の状況を考慮すると難しいと思っている。システムティックなアプローチによる評価をしていきたい。

2点重要なポイントがある。

① 説明の仕方として、可能性がある10の競技会場を見て、そのうちの1つである彩湖は“?”がついてしまう。

② コストについては、今後これだけの策を講じる、既にこれだけの費用を使ってしまった。なので、海の森水上競技場を競技会場としたいと願います。

(都) まさにその2点が、残りの時間で議論されるべき論点だと思っている。彩湖で競技開催が可能かという点についてこちらから説明するとともに、海の森水上競技場でもう一段コスト削減できないか、これらを説明させてもらう。

(F) 我々は海の森水上競技場での方向性でサポートすると考えているが、過去2回ともIOCはコストがかかり過ぎると言っている。その点で代替案の提示は不可欠である、ただし、今回代替案となっている彩湖は十分な情報がない。だから海の森水上競技場を競技会場としたいと説明する必要がある。さらに、海の森がボート競技開催のためだけの開発ではなく、都民の理にかなった開発コンセプトに基づいた計画であると説明すべきである。

(都) 既に海の森水上競技場で、基本設計が始まっている。他の競技会場についても、把握しきれていない課題があるはずであり、簡単に変更ということにはならないと考えている。

(F) もし逆の立場であっても、同様の説明をするので問題ない。

(組) ■■■■氏の説明はよく理解できる。東京2020の立場では、単純に競技会場を整備するというものではなく、都市計画の枠組みに視野を広げて説明することが重要であり、そうすれ